

合言葉

久留米市立諏訪中学校 3年 江頭 彩英

「おはよう。」母の元気な声から始まる憂鬱な朝。教室に入るのが怖く、周りの目を気にしすぎて、学校に行くのが嫌になっていた私は、「行きたくない。」と母に伝える毎日が続きました。

私自身も当時はまさか自分がこのようなことになるとは思ってもせず、中学校での新しい生活に期待を胸に膨らませ入学しました。しかし、ある日から新しい環境になかなか馴染めず、不安と焦りを感じ始めました。「何で私が？」と自分自身に腹が立つほど悔しい思いをしました。そんな日々が続く中、教室に行くと、「最近元気がないけど大丈夫？」と私の様子に気づき声をかけてくれた友達がありました。声をかけてくれる。私はそれだけで、少しほっとするような気がして、温かい気持ちになれました。別の友達は、自分の分とは別に授業のノートを書いて渡してくれました。「おはよう。」「大丈夫だよ。」「また明日ね。」このような言葉に、私はこれまで感じたことのない感情。温かくて胸がぎゅーっとなり、涙が出るほどうれしい気持ちになったのを今でも覚えています。

ふと、気づきました。普段から私たちが何気なく当たり前のように使っている言葉。直接顔を見て伝え合うからこそ相手を笑顔にできたり、安心したり、新しい一歩を踏み出す勇気をくれたり、嬉しい気持ち、優しい気持ちになることができる。この当たり前のことに気づいたと同時に、入学式当日に担任の先生がおっしゃった言葉を思い出しました。それは、「噂話や偏見に流されるのではなく、自分の目で見て、感じて確かめなさい。」という言葉でした。私にはそれができていたでしょうか。私自身が心を開くことができずに壁をつくってしまっていたからかもしれないと思いました。きっと周りの友達にも気を遣わせていただろうなと思います。

そんな自分が嫌で変わりたくて、「2年生こそは、無理せず、自分らしくいたい。」と新学期を迎えました。あの時が、今への自分のスタートです。「ねえ、ねえー。」と話しかけてみたら笑顔で言葉を返してくれること、「さえー。」と声をかけてもらえること、普通のことかもしれないけれど、それがとても嬉しくて、その一つ一つの言葉、コミュニケーションは、とても温かく沢山の勇気と元気をもらえました。無理せず安心できる教室でたくさんの人と出会い、初めて「楽しい。」と思える充実した毎日を送ることができました。改めて直接顔を見合わせて挨拶したり、笑い合えたりする、そんな日々は当たり前ではないことだと実感し、「この出会いをずっと大切にしていきたい。」と強く思いました。

現代は、スマホやパソコンがあればどんな情報でもすぐに調べられるし、誰とでも簡単に連絡を取ることができる時代です。反面、内容によっては、顔が見えないと相手が今どのように思っているのか、文字だけで表現したり、読み取ったりすることは、すごく難しいと思うこともあります。皆さん考えてみてください。一緒に過ごしている友達や先生、家族に感謝を伝えたり、本当にきついことを相談したりすることはできていますか？恥ずかしさや緊張、相手に自分の伝えたい意図がうまく伝えられずにもやもやとした不安な気持ちになった経験はありませんか？しかし、きちんと顔を見合わせて伝えることは、お互いの心と心をつなぐ合言葉だと私は思います。だから伝えることの大切さを忘れずに、私が支えてもらったように、これからは、人に思いやりと優しさをもって支えられる私になりたいと思います。

最後に、これまでずっとそばで見守り支えてくれた友達、先生方、家族に感謝の気持ちを込めて、「本当にありがとう。」これが、今、私が伝えたい合言葉です。